

活動名 探検クラブ	団体名	特定非営利活動法人 これからの学びネットワーク
	地域	広島県広島市
	代表者	代表理事 堀江 清二
	支援金額	25 万円
活動概要	<p>近年、学校教育においても、子ども達が生きる力をつけるためには、「参加体験型」の学習の要素が重要であり盛んに取り上げられています。しかしながら、縦割りの科目の影響で十分にできない場合や、異学年や異なる属性の人との交流が十分にできていない場合が散見されます。そこで、社会教育の領域で「参加体験型」の学習を促進するために、2012 年から、これからの学びネットワークでは小学生の放課後学習や体験学習を定期的なクラブとして提供をはじめています。具体的には、国語をテーマにした「ブッククラブ」「ことばクラブ」、自然体験やコミュニケーションをテーマにした「探検クラブ」です。</p> <p>「探検クラブ」は 2012 年 11 月から実施しており、自然の中で仲間と力を合わせて活動する「冒険教育」を通じて、子ども達が自分で考え表現する力、課題解決に立ち向かう力、コミュニケーション能力を高めることを目的とします。</p> <p>◆実施時期 【前期開催日】2013 年 10 月 12 日・10 月 13 日・11 月 9 日・11 月 10 日 【後期開催日】2014 年 1 月 25 日・1 月 26 日・2 月 15 日・2 月 16 日 実施場所:広島市東区スポーツセンター周辺など</p> <p>◆参加人数 参加者として広島市内の小学 3～5 年生 前期 12 名 後期 12 名 前期、後期 スタッフとして大学生各 7 名・社会人各 2 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:42 名</p>	



道なき道を進む力を身につけよう



コンパスを頼りに山の中を進むストレートハイク



探検家になるぞ、お～♪

探検クラブは、グループの仲間と力を合わせて、ふだんの生活ではなかなかできないチャレンジをし、「探検家の力」を身につけようとするクラブです。自分自身を通して、自然や社会の様々な、時の季節、思いやりを体験しましょう。

グループの仲間と、最後まで最後までがんばり、気持ちを持ってチャレンジするのは、きっと素晴らしい思い出と発見の場になりますよ！

探検クラブ
 目的 前期 後期：各全4回
 開催 2013年10月～11月
 2014年1月～2月
 対象者 小学3～5年生 / 21名
 ※前期後期別11名ずつ
 ※全4回参加可能
 開催場所 東区スポーツセンター周辺
 中野山周辺 広島市東区
 ※中野山周辺は申し込み要
 参加費 5,000円 (前期)
 ※全4回参加で20,000円

コレマナ 検索

主催 特定非営利活動法人これからの学びネットワーク 協賛 広島県教育委員会 協賛 マツダ財団

ちらし

◆実施に伴う効果

全4回の終了後、参加者の保護者に対しては、その効果を問うヒアリングを行った。その結果、いつもは自己表現が少ない子の表現が増えてきたというものや、問題を解決するにあたり、いつもは他力本願になるところが自分で向き合おうとしていた…などといった声が聞かれた。実施にあたり、参加者と、その保護者から得た声を総合すると、今回とった下記の運営手法について、一定の評価が得られたものと考えている。

【「冒険教育」の手法の採用】

欧米などでの青少年教育でさかんに実施され、成果をあげている“冒険教育”という手法を取り入れて実施した。日本でも、古くから、“かわいい子には旅をさせよ”という言葉があるように、慣れ切った日常生活の繰り返しではなく、初めて出会う人間関係や、問題解決のための場面に向き合ったとき、子どもたちが、本気で考え、学び、他者と助け合うことの必要性が生じるように工夫されているのが冒険教育である。自然の中(非日常性)を活用して行われるチャレンジ系のプログラムの体験は、子どもたちにとっては、慣れ親しんだ自分の思考パターンや行動パターンを揺さぶられ、記憶に残るものとなったのではないと思われる。

【「体験学習法」の手法の採用】

様々な活動の体験だけをしてよしとするのではなく、各活動の後に「シェアリング(わかちあい)」とよばれるグループでの内省の時間を設けていた。こうした手法は、体験学習法とよばれている手法である。同じ体験を共有し、仮に同じような「行動」をしていたグループのメンバーであっても、子どもたちは、実は十人十色の「気持ち」を抱きながら活動を行っている。目に見える「行動内容」だけでなく、そうした目に見えない「気持ち」もしっかりとわかちあったうえで、グループとしてのパフォーマンスを高め、次の活動にステップアップしていこうという学習サイクルを「探検クラブ」では繰り返していった。つまり、「体験から学ぶ」だけでなく、日常生活にも汎用できるように、「体験から“学び方を学ぶ”」場を、シェアリングを織り込むことで創りだすことをねらっていた。シェアリングで出てくる価値観には、決まった答えはない。子どもたち一人一人が、「他者の鏡に映る自分」を見て、気づきを得、新しい価値観を作り出し、元気に次の活動に向かっていけるような場づくりを、ファシリテーターとしての事前トレーニングを受けたスタッフたちが行っていく。

「人は一人では生きていけない」だけに、自分のやりたいことに向かう「自己実現の力」は、「他者を動員する」、「自分にとっての“心地よい居場所”を確保する」などのコミュニケーション能力で決まってくると言われている。「他者の鏡」を活用し、コミュニケーション力も鍛えていこうとした学びは、独学でいくら机に向き合った学習時間を増やしても、なかなか身に付かない大切な力であり、こうした手法による効果の期待は、多くの参加者の保護者が持っていた。今回はその期待に十分に答える内容が提供できたものと考えている。

◆苦勞した点

最も苦勞したのは、「冒険教育」と「体験学習法」を駆使できる「ファシリテーター型スタッフ」の養成であった。プログラム開発にあたり、下見や事前打ち合わせの手間を膨大に要した。そのための経費と時間確保のやりくりで思考錯誤を重ねた。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・スタッフ養成
- ・さらなる参加者増
- ・プログラム運営における採算をとり、事業を持続可能なものとする。
- ・様々な問題解決場面にチャレンジしていける子どもたちを育てていくこと

◆活動を終えての感想・意見等

私たちの新しい体験活動の開発に向けて助成をいただき感謝しています。これをステップに、より良い体験活動事業をつくりだす努力を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。